

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000472		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	グループホーム此の花		
所在地	愛知県豊田市保見町井ノ口73番地		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=2393000472-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症だけでなく、身体介護が重度となってもグループホームを退所することなく継続利用が出来るように、ベッドやトイレ、お風呂など様々な設備を最新の物を導入することで、入居者様には身体の負担なく日々の生活を送っていただけています。また、睡眠状態を常時記録できるシステムも導入しているため、巡視時以外でも入居者様の状態把握が出来、その情報を元に往診DRと連携を取り、より良い睡眠が取れるよう環境を整えることも出来ています。往診Drは月2回の往診時だけでなく、緊急時の臨時往診にも対応して下さるため事業所内で対応できることも多く、病院受診等ご家族への負担も減らすことが出来ています。今年度より、短期利用サービスを開始。ベッドに空きが出来た時しか利用できませんが入所サービスと合わせて、より柔軟にサービス利用ができるよう体制作りを行うことが出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

《今年度評価は、コロナ禍により電話ヒアリングとして実施した》
 コロナ禍により、様々なサービスの提供に制約を受ける中、利用者の性格を支えるべくホーム内で出来ることに前向きに取り組んでいる。家族の面会についても、制約を設けざるを得ず、利用者のホームでの暮らしぶりについては、家族に電話や便りにて詳しく伝えるようにしている。
 医療法人を母体を持つホームの強みを活かし、利用者が必要とする医療が受けられ、緊急時にも迅速に対応出来る体制が構築されており、家族の安心感に繋がっている。ホームでは、今年度から短期利用サービスを開始しており、地域福祉への取組みは高く評価できる。職員の育成にも力を注いでおり、サービスの質の向上に向けた取組みが継続されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊成会に関わる全ての人が豊かに成るという理念だけでなく、クレドカードを作成し職員に配布することで同じ理念を共有してサービスの実践を行うよう努めている	理念をホーム内に掲示するとともに、行動指針を明確にして職員に伝えている。会議などで理念について話をする機会を設けており、クレドカードを職員全員に配付し、日々の業務の中で実践出来るよう理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続きコロナの影響で地域行事は全て中止となり、地域交流を行うことが出来なかった。感染者数が多い時期には事業所の状況を運営推進会議の資料配布という形で、自治区役員の方にお伝えしている	コロナ禍により、地域のイベントやホームの対外的な行事は行えない状況が続いている。地域との交流機会として、認知症カフェを相談窓口として活用できないかなど検討しているが、コロナ感染症の終息を待っている状態である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地域交流が出来なかったこともあり、こちらからの情報発信もほとんど行うことが出来なかったが、地域包括の活動支援や、公民館で要望のある研修を開催しては、という意見をいただき具体的内容の検討を始めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの流行が落ち着いていた3月、7月、11月は運営推進会議を実施することができたが、それ以外は資料を配布するという形で状況報告会の代わりとしている	昨年度は、運営推進会議を書面でしか開催出来なかったが、今年は3回の対面での開催が出来た。会議への参加を促すために、ホーム行事と絡めて行えないかなど、検討を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの流行以降、相談員の来訪は中止となっている。しかし昨年以上には感染対策やLIFEなどの法改正による取り組みについて積極的に介護保険課と連携を取り対応することが出来た	行政担当課とは電話やメール・FAXで連絡や報告・相談等を行っている。感染防止対策や法改正に関しては、従来以上の連携がある。不便は感じるものの、必要な連携は図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束に関する内部研修を実施しているため禁止行為については全職員理解している。施錠に関し、ユニットは日中開錠しており利用者様が自由に中庭に出ることが可能となっている。	ホーム内での研修が行われており、動画を使用したり、身体拘束に対しての意識調査を実施するなど、職員の意識の向上を図っている。スピーチロックについての職員の意識が高まっており、研修の成果が表れている。	身体拘束や虐待には職員の日ごろのストレスが要因になることもあり、ストレスを緩和していくための施策の検討も必要であろう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく年2回内部研修を実施し、全職員に対して身体拘束と虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、各フロアに監視カメラを設置し、万が一のことがないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見人制度を利用し入所されている利用者様はいるが、成年後見人の方がどういった活動をされているか知らない職員も多いため、学ぶ機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に場を設けて説明会を開いて納得していただいたうえ、文書による通知を行うことで問題なくご理解いただけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時など、意見や要望があれば随時話を伺い、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力していたが、コロナ禍で面会制限をかけたこともあり、意見自体が出難い状況であった	面会時や電話で家族から話を聞く機会を設けており、意見・要望を聞くように努めている。電話やホームの便りで利用者の近況を報告しており、Webでの面会が可能なことも知らせ、把握した要望等は運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部長が定期的に来訪し、各職員と話をされ、普段の様子も把握されている。そのため、こちらの意見や提案を言う機会が増えており、事業所運営にも反映されやすくなっている。また、法人として職員専用の相談窓口も用意している	管理者と職員とが、日常的に話す機会がある。法人幹部の訪問もあり、職員は直接話をする事が出来る。全体会議・ユニット会議が毎月あり、意見・提案を共有して検討する場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部長との個人面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた。職員の誕生日にはプレゼントを渡ししながら意見や訴えを聞く機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せることは無く、最低3ヶ月は試用期間を設けている。また、昨年度より法人内で実務者研修を実施し、職員教育にも力を入れており、ほとんどの職員が実務者資格を保有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県GH協会に加入しており、例年であれば様々な会議や研修などで情報交換を行っているが、現在はZOOMでのやり取りがほとんどで対面に比べて意見交換がやり難い状況となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お会いして面談を行い、細かく要望等を聞くとともに、ご家族からも情報をいただき、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の負担にならないよう配慮しながら、ご自身で出来ることは行っていただき、掃除や料理などの家事も一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にとって、ご家族の存在の大切さを伝え、職員だけでなくご家族も一緒になって利用者様を支えられるような関係を作っているが、面会にほとんど来られず職員に任せきりのご家族も少なからずおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しいことに加え、コロナのため交流自体が減っているが、年賀状を書いたり、日々のレクで作った作品をお渡ししたりと関係が途切れないよう努めている	コロナ禍により、家族や知人・友人の訪問は減少したが、感染防止に配慮しつつ面会は行っている。趣味や習慣の継続支援や、日々のレクリエーション・通信の支援により、関係継続に向けて取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、リビングの席や居室を変えたり、職員が間に入るといった支援を行っている。また、行事レクでは両ユニットの利用者が交流を出来るよう企画し実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居されたあとも、ご家族や退所先から要望があれば、日々の生活の様子や具体的なケアの方法などの情報を提供するなどの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人と話をする機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、何度も話をする機会を設けたり、ご家族と話をして過去の経歴等から情報を得ている	利用者との日常の会話や行動・表情から、意向や思いを把握するように努めている。「電子カルテ」や「申し送りノート」、個別ファイル等に情報は記録され、職員間で共有して検討した上で介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集めたり、会話の中からも把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者様のその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察して現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が3カ月毎にケアチェック表を作成しケアマネへの情報提供を行っている。それを元にモニタリングとサービス担当者会議を行っている。最終的に、ご家族にも意見をいただきプラン作成に反映している	介護計画は6ヶ月ごとに更新されている。3ヶ月ごとに担当職員を中心にモニタリングが行われ、カンファレンスにて評価・検討して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを複数台導入することで、記録の効率化を図り、職員間での情報の共有化に努めている。職員が慣れたことで、記載内容も分かりやすく情報共有も円滑に行えるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況や要望に沿って、職員間で相談し合い、先を見越したより良いケアが出来るように努めている。必要であればご家族の協力も仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築くよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが訪問診療を行っているため、細かい連携も取れており、今の利用者様に合った医療が受けられる環境ができている。容体が悪い場合はすぐに紹介状を書いていたが、協力医療機関を受診することで安全面の配慮もできている	同一法人の医師が、月に2回の訪問診療を行っている。利用者の診療情報は、Lineを用いて共有されている。利用者の状態の変化には随時対応し、適切な医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様について気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えている。また、看護師からは介護職に医療の面でのアドバイスや実演を交えた指導を行い、ケアの向上を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている。また、可能な限り当事業所へ戻って来られるよう病院、ご家族と連携し支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についてご家族の要望を伺ったり、今後のケアの方向性について、Drを交えて相談し、アドバイスを行っている。また、重度化した場合には特養等、より利用者様に合った施設の情報提供も行っている	利用者の状態が重度化した場合、ホームとして出来る範囲で対応している。医師を交えた話し合いにより、適切な支援が受けられる施設を紹介するなど、利用者の最善の利益となるよう移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	家族会と絡めて救急救命講習を実施する予定だったが、コロナ流行の為に中止となっていた。実務者研修受講者は講習内で救命講習も受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ流行のため自治区の方と避難訓練を一緒に行うことは出来なかったが、運営推進会議にて自治区の防災体制をお聞きすることが出来た。現在BCPマニュアル作成のため情報をまとめている	ホーム独自のBCP(事業継続計画)策定のため、情報を収集して検討している。年に2回の避難訓練や毎月1回防災の日を設定し、事例検討などを行い、災害発生に備えている。地域との協力体制構築のための取り組みも継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が気楽な声かけのなかでも、利用者様の尊厳を傷つけないよう細やかな配慮や対応を心がけている	職員は人権や尊厳・プライバシーに配慮した対応を心がけており、研修や勉強会に参加して、職員は理解を深めている。管理者からのOJTや職員同士で注意し合う等、ホーム全体で取り組む環境がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様と関わる時間を増やし、会話内容やご本人の表情から思いや希望を読み取り、本人中心の支援ができるよう心がけているが、平均介護度の増加もあり、余裕をもって対応できないこともあった		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や食事の時間などある程度のスケジュールはあるが、無理強いすることなくその人のペースに合わせた支援を行えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者様にはご家族協力のもと化粧品を用意している。コロナのため頻度は少なかったが感染状況が落ち着いていたときには職員やご家族と一緒に買いに行くといった支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託であるが、利用者様の好みに合わせておかずを選ぶことができるようになっている。委託になった分時間に余裕もできたため、皆で準備や片付けをすることもできるようになってきた	調理は外部委託されている。職員に時間の余裕が出来たことにより、利用者と一緒に準備や片付けを行えるようになった。行事食やおやつレクでは手作りのメニューを提供し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。 また、水分でむせ込んでしまう方には、トロミを付けて提供するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の計4回、食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯磨きが出来ない方には状態に合わせてスポンジブラシや口腔ケア用ペーパーも使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導を行っている。汚染等で本人がショックを受けないようパンツやパット等の使用方法を随時見直している	利用者の排泄能力やパターンを把握し、利用者個々に合わせた支援を提供している。介助時には、羞恥心やプライバシーに配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が摂れるよう支援したり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者様に合った薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には入浴時間を変えて気分が変わるのを待ったり、入浴日自体を他利用者様と入れ替えるといった支援を行っている。また、健康面で心配な入居者様にはDr来訪時に入浴を行っている	週に2回の入浴機会があり、利用者の体調や希望に配慮し、入浴可否を決定している。異性の介助を好まない利用者には、介助する職員を替えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルいつでも見れるようにしている。また、服薬介助は可能な限り常勤職員で行うことを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者様には代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらおう等といったその人に合った支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に続き、コロナ流行のため外出行事も実施できず、買い物等人がいる場所への外出も中止となった。どうしても外出が必要な場合は流行が落ち着いているタイミングに感染対策を徹底しご家族様と外出を行った	コロナ禍が継続しており、行事への参加や買い物・外食は自粛している。日常的には、ホーム周辺の散歩程度の支援に留まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分でお金を所持し管理することは現状では難しいので、事業所で管理し必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がして混乱がないようにしている。また、花や毎月の掲示物などを飾り季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している	コロナ禍により、電話でのヒヤリングのため、視察出来ていない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者様のレベルや相性を考えて決めている。1人になりたい方には居室以外に1人になれる場所はないため、居室で過ごしやすい環境を作るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者様の希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしているが、それが元で混乱が見られる場合は撤去も行っている	コロナ禍により、電話でのヒヤリングのため、視察出来ていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で、ADL自立で入所された方が歩行器～車椅子と重度になっていく中でも不自由しないような設備を整えている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000472		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	グループホーム此の花		
所在地	愛知県豊田市保見町井ノ口73番地		
自己評価作成日	令和3年12月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2393000472-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和4年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症だけでなく、身体介護が重度となってもグループホームを退所することなく継続利用が出来るように、ベッドやトイレ、お風呂など様々な設備を最新の物を導入することで、入居者様には身体の負担なく日々の生活を送っていただけています。また、睡眠状態を常時記録できるシステムも導入しているため、巡視時以外でも入居者様の状態把握が出来、その情報を元に往診DRと連携を取り、より良い睡眠が取れるよう環境を整えることも出来ています。往診Drは月2回の往診時だけでなく、緊急時の臨時往診にも対応して下さるため事業所内で対応できることも多く、病院受診等ご家族への負担も減らすことが出来ています。今年度より、短期利用サービスを開始。ベッドに空きが出来た時しか利用できませんが入所サービスと合わせて、より柔軟にサービス利用ができるよう体制作りを行うことが出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊成会に関わる全ての人が豊かに成るという理念だけでなく、クレドカードを作成し職員に配布することで同じ理念を共有してサービスの実践を行うよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に続きコロナの影響で地域行事は全て中止となり、地域交流を行うことが出来なかった。感染者数が多い時期には事業所の状況を運営推進会議の資料配布という形で、自治区役員の方にお伝えしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で地域交流が出来なかったこともあり、こちらからの情報発信もほとんど行うことが出来なかったが、地域包括の活動支援や、公民館で要望のある研修を開催しては、という意見をいただき具体的内容の検討を始めた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの流行が落ち着いていた3月、7月、11月は運営推進会議を実施することができたが、それ以外は資料を配布するという形で状況報告会の代わりとしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの流行以降、相談員の来訪は中止となっている。しかし昨年以上には感染対策やLIFEなどの法改正による取り組みについて積極的に介護保険課と連携を取り対応することが出来た		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束に関する内部研修を実施しているため禁止行為については全職員理解している。施錠に関し、ユニットは日中開錠しており利用者様が自由に中庭に出ることが可能となっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく年2回内部研修を実施し、全職員に対して身体拘束と虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、各フロアに監視カメラを設置し、万が一のことがないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見人制度を利用し入所されている利用者様はいるが、成年後見人の方がどういった活動をされているか知らない職員も多いため、学ぶ機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に場を設けて説明会を開いて納得していただいたうえ、文書による通知を行うことで問題なくご理解いただけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時など、意見や要望があれば随時話を伺い、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力していたが、コロナ禍で面会制限をかけたこともあり、意見自体が出難い状況であった		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部長が定期的に来訪し、各職員と話をされ、普段の様子も把握されている。そのため、こちらの意見や提案を言う機会が増えており、事業所運営にも反映されやすくなっている。また、法人として職員専用の相談窓口も用意している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部長との個人面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた。職員の誕生日にはプレゼントを渡しなが意見や訴えを聞く機会を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せることは無く、最低3ヶ月は試用期間を設けている。また、昨年度より法人内で実務者研修を実施し、職員教育にも力を入れており、ほとんどの職員が実務者資格を保有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県GH協会に加入しており、例年であれば様々な会議や研修などで情報交換を行っているが、現在はZOOMでのやり取りがほとんどで対面に比べて意見交換がやり難い状況となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お会いして面談を行い、細かく要望等を聞くとともに、ご家族からも情報をいただき、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の負担にならないよう配慮しながら、ご自身で出来ることは行っていただき、掃除や料理などの家事も一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にとって、ご家族の存在の大切さを伝え、職員だけでなくご家族も一緒になって利用者様を支えられるような関係を作っているが、面会にほとんど来られず職員に任せきりのご家族も少なからずおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しいことに加え、コロナのため交流自体が減っているが、年賀状を書いたり、日々のレクで作った作品をお渡ししたりと関係が途切れないよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、リビングの席や居室を変えたり、職員が間に入るといった支援を行っている。また、行事レクでは両ユニットの利用者が交流を出来るよう企画し実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居されたあとも、ご家族や退所先から要望があれば、日々の生活の様子や具体的なケアの方法などの情報を提供するなどの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人と話す機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、何度も話す機会を設けたり、ご家族と話をして過去の経歴等から情報を得ている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集めたり、会話の中からも把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者様のその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察して現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が3カ月毎にケアチェック表を作成しケアマネへの情報提供を行っている。それを元にモニタリングとサービス担当者会議を行っている。最終的に、ご家族にも意見をいただきプラン作成に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを複数台導入することで、記録の効率化を図り、職員間での情報の共有化に努めている。職員が慣れたことで、記載内容も分かりやすく情報共有も円滑に行えるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況や要望に沿って、職員間で相談し合い、先を見越したより良いケアが出来るように努めている。必要であればご家族の協力も仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築くよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが訪問診療を行っているため、細かな連携も取れており、今の利用者様に合った医療が受けられる環境ができています。容体が悪い場合はすぐに紹介状を書いていただき、協力医療機関を受診することで安全面の配慮もできています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様について気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えている。また、看護師からは介護職に医療の面でのアドバイスや実演を交えた指導を行い、ケアの向上を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている。また、可能な限り当事業所へ戻って来られるよう病院、ご家族と連携し支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についてご家族の要望を伺ったり、今後のケアの方向性について、Drを交えて相談し、アドバイスをしています。また、重度化した場合には特養等、より利用者様に合った施設の情報提供も行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	家族会と絡めて救急救命講習を実施する予定だったが、コロナ流行の為に中止となってしまった。実務者研修受講者は講習内で救命講習も受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ流行のため自治区の方と避難訓練を一緒に行うことは出来なかったが、運営推進会議にて自治区の防災体制をお聞きすることが出来た。現在BCPマニュアル作成のため情報をまとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が気楽な声かけのなかでも、利用者様の尊厳を傷つけないよう細やかな配慮や対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者様と関わる時間を増やし、会話内容やご本人の表情から思いや希望を読み取り、本人中心の支援ができるよう心がけているが、平均介護度の増加もあり、余裕をもって対応できないこともあった		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や食事の時間などある程度のスケジュールはあるが、無理強いすることなくその人のペースに合わせた支援を行えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者様にはご家族協力のもと化粧品を用意している。コロナのため頻度は少なかったが感染状況が落ち着いていたときには職員やご家族と一緒に買いに行くといった支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託であるが、利用者様の好みに合わせておかずを選ぶことができるようになっている。委託になった分時間に余裕もできたため、皆で準備や片づけをすることもできるようになってきた		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。また、水分でむせ込んでしまう方には、トロミを付けて提供するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の計4回、食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯磨きが出来ない方には状態に合わせてスポンジブラシや口腔ケア用ペーパーも使用している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導を行っている。汚染等で本人がショックを受けないようパンツやパット等の使用方法を随時見直している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が摂れるよう支援したり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者様に合った薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には入浴時間を変えて気分が変わるのを待ったり、入浴日自体を他利用者様と入れ替えるといった支援を行っている。また、健康面で心配な入居者様にはDr来訪時に入浴を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルいつでも見れるようにしている。また、服薬介助は可能な限り常勤職員で行うことを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者様には代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらおう等といったその人に合った支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に続き、コロナ流行のため外出行事も実施できず、買い物等人がいる場所への外出も中止となった。どうしても外出が必要な場合は流行が落ち着いているタイミングに感染対策を徹底しご家族様と外出を行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分でお金を所持し管理することは現状では難しいので、事業所で管理し必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がして混乱がないようにしている。また、花や毎月の掲示物などを飾り季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者様のレベルや相性を考えて決めている。1人になりたい方には居室以外に1人になれる場所はないため、居室で過ごしやすい環境を作るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者様の希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしているが、それが元で混乱が見られる場合は撤去も行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で、ADL自立で入所された方が歩行器～車椅子と重度になっていく中でも不自由しないような設備を整えている		